北関東防衛局広報

防衛省
MINISTRY OF DEFENSE
防衛省北関東防衛局総務部報道官編集発行
さいたま市中央区新都心2-1
http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/

８月30日、埼玉県の航空自衛隊入間基地で、入間地区隊友会の会員約80名を前に鎌田北関東防衛局長が講演を行い、北関東防衛局が実施している業務の概要や防衛省改革などについて話しました。講演会に参加した方々は、鎌田局長の講話に熱心に耳を傾けていました。

上記講演会のように北関東防衛局では、自治体の研修会や、学校の授業などの場で防衛行政に関する話などのご要望がある場合、防衛省・自衛隊から講師を派遣しています。

ご要望のテーマにより専門の講師を派遣しますので、お気軽にご相談ください。

連絡先：北関東防衛局総務部総務課企画係　☎ 048-600-1805

第　9　回　防　衛　問　題

平成20年9月24日（水）、18：00より、さいたま新都心合同庁舎1号館講堂において第9回防衛問題セミナーを開催しました。今回は「国際テロを根絶するために」というテーマでインド洋における海上自衛隊による補給支援活動の意義・内容については鎌田北関東防衛局長、アフガニスタンに対する日本の人道・復興支援については外務省総合外交政策局安全保障課の山本課長補佐、派遣海上補給支援部隊の活動については自衛隊千葉地方協力本部長の久野1等海佐が講師を務めました。会場には約250名の聴衆が来場しました。セミナー終了後の感想では、「補給支援活動の内容、洋上補給について理解が深まった」、「今回初めてセミナーに参加した。また、次回のセミナーにも参加したい。」等の声も聞かれました。これからも参加者に分かりやすいセミナーを心掛けたいと思います。

開会の挨拶をする鎌田北関東防衛局長

海上自衛隊の補給支援活動の概要説明

アフガニスタンの政治・治安情勢を説明する山本補佐

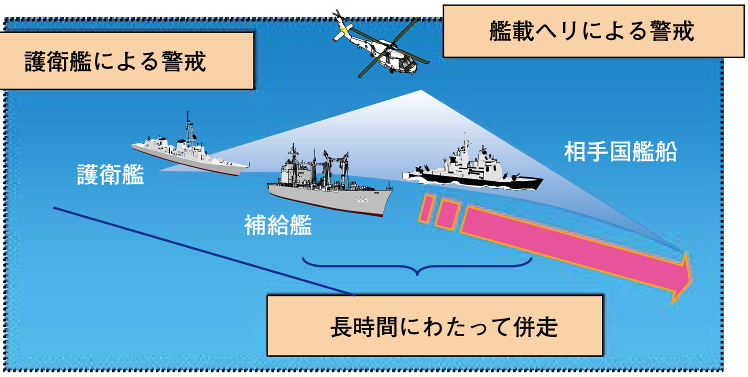
補給支援活動を説明する久野1等海佐

○　我が国の補給支援活動の意義

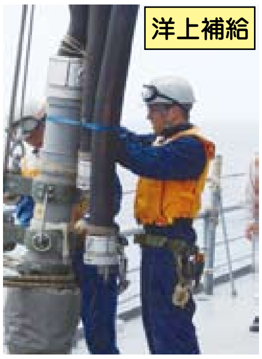
○海上阻止活動：広範な海域での常時監視が前提
　補給の都度沿岸の港湾に寄港して給油を行うとすれば、活動効率が低下
　⇒　洋上補給が不可欠

○洋　上　補　給：過酷な環境、緊張状態の中で長時間活動を継続しなければならない
　各国は多くの補給艦を有しているわけではない
　⇒　補給を長期間・安定的に実施できる国は限定的。装備、高い技術と能力があればこそ効果的に実施できるものであり、日本としての特徴を最大限に活かした活動

セミナーの開催



乗員の作業



○ 海上自衛隊の補給支援活動の国際的評価

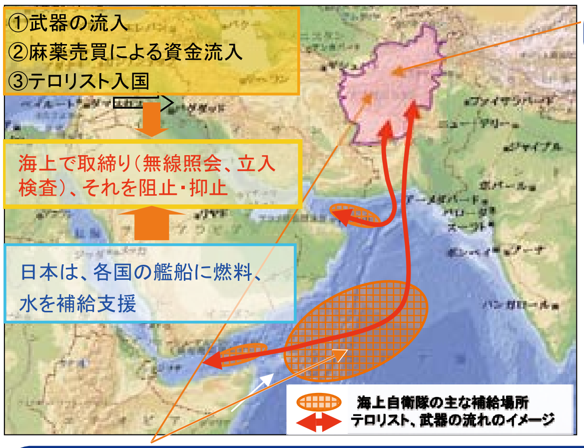
・海上自衛隊の活動は、海上阻止活動に参加する各国艦船の作戦効率の向上に大きく寄与し、海上阻止活動の重要な基盤。

・我が国の補給活動に対する各国からの評価は大変高い。

主要８カ国（G8）の活動状況

	不朽の自由作戦（ＯＥＦ）陸上での活動	不朽の自由作戦（ＯＥＦ）海上での活動	国際治安支援部隊（ＩＳＡＦ）（地方復興チーム(PRT)として派遣される部隊を含む）
米	○	○	○
英	○	○	○
仏	○	○	○
加	○	○	○
独	×	○	○
伊	×	×	○
日	×	○ ※	×
露	×	×	×

※日本は海上封鎖活動本体へは参加せず、補給支援特措法に基づき、テロ対策海上阻止活動を行う艦船に対する補給支援活動を行っている。
補給支援活動を中止すると、主要国の中で、部隊派遣の形で「テロとの闘い」に参加しない国は日本とロシアのみになる。



国際治安支援部隊（ISAF）

○ アフガニスタン等における国際社会の取組

・**不朽の自由作戦（OEF）**
陸上：アルカイダやタリバン勢力等の対テロ作戦を実施
海上：テロリスト及び関連物資の海上移動の阻止・抑止のため、インド洋を航海する船舶の検査等を実施

・**国際治安支援部隊（ISAF）**
治安維持についてアフガニスタン政府を支援

不朽の自由作戦（OEF）

○ 我が国の支援

・**全国を対象とする支援**
非合法武装集団の解体や国勢調査支援、麻薬対策支援等を行っている。

・**カブールに対する支援**
空港ターミナル建設やテレビ放送機材・設備整備等を行っている。

・**４つの重点地域に対する支援**
マザリシャリフ、バーミヤン、ジャララバード、カンダハールでの避難民の再定住支援や地方総合開発を行っている。

・**パキスタン及びイランとの国境地域の安定化支援**
職業訓練や食糧支援等を行っている。

我が国の支援

第11回防衛問題セミナーのご案内

群馬地方の皆様、今回は高崎市で開催しますので奮ってご参加下さい。

テーマ：国際テロを根絶するために
インド洋での補給支援活動

講　師：鎌田　昭良　北関東防衛局長
インド洋派遣部隊指揮官経験者　ほか

日　時：10月22日（水）18時～20時
会　場：高崎市総合福祉センター（定員280名）

JR高崎線　「高崎駅」より徒歩23分
JR信越本線「北高崎駅」より徒歩13分
入場無料・事前申込不要（定員になり次第締切）

インド洋上でパキスタン艦艇（左）に給油する海上自衛隊の補給艦「ときわ」（右）

お問い合わせ先：
防衛省北関東防衛局 総務部総務課　048-600-1805、http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/
北関東防衛局 前橋防衛事務所 027-221-5351

防　衛　閑　話

役所に入ったばかりの頃、先輩から、よく「最近の若い者は」と言われました。自分がその先輩と同じ年齢になってみると、今度は自分が「最近の若い者は」と言いたくなるものですが、安易にそんな言葉を吐けない場面に出くわしました。

少し前に北関東防衛局のある事務所に今年の4月に入ったばかりの1年生の女性職員と会合で話す機会がありました。彼女曰く、「高校生の時にボランティア活動をしていました。私がボランティア活動に強い関心があることを知った友人から無理やりボランティア部に入れられ、活動の一環として老人ホームでの奉仕活動も沢山しました。高校卒業後の職業選択にあたり、これまでは地域への奉仕をしてきたので、これからはより大きな奉仕ができる国の職員になりたいと考え、防衛省を選択しました」。

私などは、単に面白そうな役所だからぐらいの志望動機で、当時の防衛庁に入庁し、しかも30年近くにわたり勤務していると、一生懸命に仕事をしているつもりでも、「惰性」になっていることもないわけではありません。最近、ようやく20歳になり、事務所長からバースデイ・パーティーをしてもらったばかりのまだあどけなさも残る新人女性から、そう言われ、心の中でとても愕然としました。実際に彼女は事務所の中で、労務関係の仕事の一部を担当しているようですが、夜遅くまで勤務するだけではなく、転んで足の指の骨を骨折したにも係わらず、持ち前のバイタリティーで怪我などものともせず活躍しているそうです。

こうしたやる気のある若い女性が防衛省に入ってくれることはとても嬉しいことです。防衛省の全ての職員が、彼女が述べた「国のためになりたい」という「初心」に帰ることが、現在の防衛省の大きな課題の一つである「防衛省改革」の原点なのだと思います。我々、オジサン達も彼女のやる気を阻喪することがないように、“老体に鞭打って”頑張らなければいかんと考えました。